

## CT テクノロジーフォーラム体験記

札幌医科大学附属病院

原田耕平

12/16(土)、CT テクノロジーフォーラムにて講演させていただきました。今年で16回目を迎えたこの研究会は、放射線技師が聴講する研究会としては1年で最も規模が大きい。自分はこの研究会においてこれまでにシンポジスト1回、公募演題で2回発表経験があり、今回もシンポジストとして依頼を受けた。研究会は本会場の規模を縮小化する分、サテライト会場を充実させ、今年は全国73ヶ所の会が設けられていた。実際、全国で2000人を超える聴講者が訪れた。お話の内容は腹部領域(肝胆膵)における手術支援画像についてであった。持ち時間25分+質疑5分の中で最高のパフォーマンスを目標にしたせいか、スライド枚数が93枚になってしまい、打ち合わせの段階でダントツに多く、他の演者や座長から冷やかな視線を受けた。しかし、1枚も削ることなく本番に臨んだ。座長の軽い時間厳守の皮肉があって、いざスタートした。その焦りからか冒頭から世話人や主催会社へのお礼の言葉もなく始めてしまった。レーザーポインターはサテライト会場では見えないため、壇上にはタッチペンが用意されていた。そういえば、自分は午後3時頃の出番であったが、その前に話した方々はあまり使っていなかったなあと考えた。理由はすぐにわかった。ほとんどの人が左手にマイクを持ち、右手はマウス操作でスライド送りなどを行うため、タッチペンをもつ余裕などなかったのである。しかし、私は違った。あらかじめ最高のパフォーマンスができるようピンマイクを要求していたのである。さらに左手に指輪型のリモコンをはめて、スライドはそこで操作していたため、右手は完全にフリーな状態だった。そもそもこのような設定にしたのは演題席に縛られずにジョブズ風に自由に歩き回ろうと思っていたからであるが、会場は演題席の部分だけ1段高くなっていたこともあり、うろうろするのはやめようと思った。おそらく、サテライト会場では終始演題席をカメラで捕捉し、TVでいういわゆる「ワイプ」風に行っているのだろう。となると歩き回ることはますます「業者泣かせ」になってしまうと考え、せっかくだからこのタッチペンでやってみようと思ったのである。結果は大成功!あれ、すごくいいです。話している自分自身がとてもやりやすく、手書きで矢印とか、雑に表示されるところがまたいい!気になる講演時間であるが、内容的には肝臓80%膵臓15%胆道系5%で構成していたのに、肝臓が終わった段階で15分しかたっていませんでした(笑)。かなりハイピッチで飛ばしてしまったので、バリエーションヘリカルピッチを用いて、膵臓・胆道系は高精細モードに切り替えたのは言うまでもありません。講演時間は23分で終わりましたが、全国からたくさんの方の質問をいただいたおかげで持ち時間通りに終了することができました。プレゼンに慣れてくると、どうしても自分のスタイルを持ちたいと思うようになります。そんな時、一番の懸念材料が固定マイクです。やりやすさから考えれば、ピンマイク>コードレスマイク>有線マイク(固定マイク)です。あとはリモコンですね。この2つのアイテムを利用することによって自分のプレゼン能力は数段あがるはずで

す。せっかく話すんですから、聴講いただく会場の方全員が満足できるようなプレゼンをしたいという気持ちを持ってスライドを作成することも大事ですね。以上、CTテクノロジーフォーラム体験記でした。